

ASO 田園空間博物館（道の駅阿蘇）

総合案内窓口の取り組み



道の駅「阿蘇」としての取り組みも行う ASO 田園空間博物館総合案内所

ASO 田園空間博物館は、地域振興に関する様々な取り組みを行っています。その一つが「道の駅」としての取り組みです。

近年、「道の駅」は、国内旅行やドライブの立ち寄り場所として欠かせない存在となっており、全国に1100カ所以上あります。「道の駅」という

呼び名は同じでも、各々の施設（設備）や取り組みは様ではなく、まるでスーパーマケットのような「道の駅」もあれば、温泉施設や体験施設、保健福祉施設等と一体となった

「道の駅」もあります。ドライバーの休憩所としてスタートした「道の駅」ですが、今では、地域と密接した存

在になり、産業振興や防災機能、地域福祉などの面でも重要な役割を担うようになっていきます。

ASO 田園空間博物館は、従来から「サテライト支援事業」（「広報あそ」平成30年7月号掲載）や「阿蘇の特産品の情報発信事業」、「総合案内事業」を行っており、そこに「道の駅」としての取り組みを合わせ、その集客力の活用で、主要事業である田園空間博物館事業の更なる充実を図るなど、阿蘇市全体への波及効果（地域活性化）をもたらすことを目的とした各種の事業を行っています。

平成17年4月のASO 田園空間博物館総合案内所開設以来続けてきた総合案内事業は、来訪者への懇切丁寧な案内で阿蘇周遊を幅広くサポートしています。このように、阿蘇市の玄関口で地域振興の一役を担う「総合案内スタッフ」は、阿蘇市の振興と観光のブランド「然」にも認定されています。

今回は、この「総合案内事業」についてご紹介いたします。



ASO 田園空間博物館総合案内所
案内窓口カウンター

総合案内事業では、主に「案内窓口カウンター」での観光・地域案内、「インターネットを活用した観光情報・地域情報の発信」、「季刊情報誌『あかうしのあくび』の発行」、「海外関連イベント・事業の実施」を行っています。

案内窓口カウンターでは、日本語・英語・フランス語・中国語の4ヶ国語で対応しており、海外からのお客様も快適に周遊できるようご案内しています。もちろん、最新の道路情報や市内のイベント情報などもご提供していますので、市民の方からのお問い合わせも大歓迎です。ぜひお気軽にお声かけください。

海外

外に関するイベントでは、熊本県内の留学生を対象としたASO国際交流事業「レッツ・ウォーク・イン・ASO」(地域散策イベント)や台湾の淡江大学^{たんかん}学生のインターン受け入れなどを行っています。

留学生向けの地域散策イベントは、中岳火口や草千里など、世界的にも有名な観光スポットを案内するだけでなく、阿蘇神社の神事や中江岩戸神楽の観覧、婦人会の作っ

た食事を振舞うなど、地域の方々との交流を通じて阿蘇の歴史や文化に触れることができる内容にしています。これらの事業を通じて、阿蘇市民と外国人との交流を深めるほか、阿蘇市の魅力を世界へPRすることにつながっています。

このような地域振興、インバウンド対応の活動が着目され、先日、NHK国際放送内の番組「ジャパノロジー・プラス」に道の駅「阿蘇」(ASO田園空間博物館)が取り上げられました。

日本文化を海外に発信することをテーマとした番組では、道の駅のユニークな取り組みが紹介されました。番組は世界各国で放送・配信されています。

Let's Walk in ASO 手野地区散策の様子

※日本ではNHKBS1で平成30年8月7日(火)午前3時30分〜3時58分放送



卓婦公民館での食事風景

国内

内では外国人旅行者が急増する中、阿蘇地域も海外からの旅行者がますます増えてくると考えられます。

また、外国人が日本を訪れて体験してみたいことの中で、「地域ならではの体験」「地域住民との交流」「地域の

歴史や文化に触れる」等の需要がより高まっています。

こうした中、ASO田園空間博物館が阿蘇市の地域振興の役目をしっかりと果たせるよう、阿蘇市民のみならずのご協力も得ながら今後も取り組んでまいります。

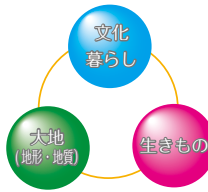
ASO国際交流事業 台湾淡江大学 インターン受け入れ

平成28年度から、台湾及びアジア圏に向けて阿蘇の情報を発信し、今後のインバウンドを増加させることを目的として、淡江大学学生のインターン受け入れを行っています。

3回目となる今回は、7月3日から8月3日までの32日間、4名の学生が、ASO田園空間博物館の他、阿蘇市内の宿泊施設や研修施設で職場体験を行いました。

学生たちは、帰国後、大学などにおいて今回の経験を元に阿蘇のPRを行う予定です。





ジオパークは、地球の活動が作りだす大地、そこで育まれる生きものや恵み、それらを人々が活用し築きあげる文化を、**観て、遊んで、味わい**、地球と私たちの暮らしの『つながり』を知り、地球とより良く暮らすことを考えるきっかけとなる場所です。

阿蘇ユネスコジオパークの **HOT** な話題をお届け。

カルデラ暮らし

ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARKGEOPARK



2名の審査員を歓迎する佐藤市長 ウィズリー・ヒル氏

ユネスコ世界ジオパークの再認定審査が行われました！

8月6日～9日にかけてユネスコ世界ジオパークの再認定審査が行われました。前回の『カルデラ暮らし』では、なぜ再認定審査が行われるのかと、審査のポイントをご紹介しました。今回は、4日間にわたり行われた審査の様子についてご紹介します。

1日目

■阿蘇火山博物館

阿蘇ジオパークの4年間の取り組みや運営体制などの現況説明、ジュニアジオガイド講座の視察、ジオパークガイド協会による活動状況の報告に基づき意見交換を行いました。



ジュニアジオガイドたち

■阿蘇中岳火口

中岳火口の視察では火口見学の安全確保、火山活動の監視体制、研究などを紹介しました。

2日目

■道の駅阿蘇

(ASO田園空間博物館)

道の駅阿蘇では、外国人を含めたツアー客にどのような対応しているか、地元の特産をジオパークと関連付ける工夫などを紹介しました。

■大観峰

大観峰では、ジオガイドによる案内を行い、カルデラ地形の説明や、熊本地震後の内牧温泉の復旧への道のりを紹介しました。



大観峰から阿蘇谷を望む

■阿蘇神社

阿蘇神社では、震災からの復旧の状況や、ジオガイドによる来訪者への対応など支援の様子を紹介しました。



復旧状況などを説明

■押戸石(南小国町)

押戸石ジオサイトでは、地元のNPO団体が周辺の草原をどのように保全しているかを紹介しました。



押戸石の磁場を調査

阿蘇ジオパーク推進協議会

〒 869-2232 熊本県阿蘇市赤水 1930 番地 1 阿蘇火山博物館内

TEL: 0967-34-2089 FAX: 0967-34-2090

公式ウェブサイト: <http://www.aso-geopark.jp/> フェイスブック: <https://www.facebook.com/AsoGeopark/>



ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK ASO UNESCO GLOBAL GEOPARK



阿蘇地域一帯の模型による説明

■阿蘇草原保全活動センター
環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所がジオパークと国立公園の協力関係を紹介しました。

300目

■鍋ヶ滝(小国町)
阿蘇火山の4回にわたる巨大火砕流噴火の中で、最も大規模だと考えられているASO・4(4回目の噴火)火砕流による溶結凝灰岩が滝をつくっている状況や、この滝を訪れる観光客の安全対策、保全対策などを小国町長が説明しました。

■立野峡谷(南阿蘇村)
熊本地震の際に崩落した立野峡谷の阿蘇大橋付近で、ジオガイドから説明があった後、国土交通省からインフラ復旧に向けた取り組みやジオパークとの協力関係の紹介、南阿蘇村からは、震災の記憶をとどめるための取り組みも紹介しました。

■久木野層(南阿蘇村)
阿蘇カルデラがかつて湖であった時代に堆積した地層(久木野層)について、将来のジオサイト化への可能性等を、南阿蘇村長が説明しました。

■南阿蘇鉄道(高森町)
南阿蘇鉄道のトロッコ列車で中松駅から高森駅まで乗車を体験し、外国語を交えて沿線からの風景について解説しました。高森駅では、高森町長や町のゆるキャラ「風まる」などが迎え、昼食を取りながら高森町におけるジオパークの活動、町づくりなどの現状を紹介しました。

審査員講評

最後に4日間の現地審査について審査員の2名から講評をいただきました。その中では、「熊本地震があったにもかかわらず、ジオパークとしての根幹がしっかりつくられている。復興においては、災害の爪痕を残しながら、50年後の人たちが見てもその過程が分かるように進められていることが素晴らしい。」などの評価をいただきました。また、阿蘇ジオパーク推進協議会へ、日頃の業務から、審査に至るまでの対応について労いの言葉もいただきました。

これからの活動に対しては、「熊本地震からの復興に向けた活動を最重要事項として取り組んでほしい。そこから新しい教育や研究の価値が生まれる。」ということや、「阿蘇地域は、ユネスコ世界ジオパークの新しい候補地にとってモデルとなりうる活動を続けてほしい。自然・文化・



歴史・人々の生活の強い繋がりを、より磨きあげて他のユネスコ世界ジオパークに伝えることが重要な役割。」等のアドバイスをいただきました。

ユネスコ世界ジオパークの再認定審査の結果は、9月にイタリアで開催される世界会議で審議された後、来年4月から5月頃、ユネスコ執行委員会を経て、決定・公表される予定です。